【授業科目】フィジカルアセスメント　Physical assessment

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	オフィスアワー
吉田 和枝、三好 陽子、別所 史子	1 年次 前期	選択	2	30	講義 演習	巻末 掲載

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	複雑な健康問題をもった対象の身体状況を診査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を習得する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。或は全体の総評コメントを授業内で提示・プリント配布により公開する。 実務経験のある教員が教授する。
授業の位置づけ	本大学院のディプロマポリシーの②、③の達成に寄与している
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	１．フィジカルアセスメントの概念、目的、方法、看護における必要性が理解できる。 ２．対象者の症状・所見から必要なフィジカルイグザミネーション、アセスメントを系統的に行うことができる。
時間外学習に必要な内容・時間	講義で配布する資料および紹介文献を講義前、講義後に読み、講義内容の理解を深める。（各 90 分） 提示された課題に関連する文献を検索・検討し、配布資料や講義の学びを合わせてレポートする。（180 分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1 回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習 1 時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	第１回　授業オリエンテーション	吉田
	第２回　フィジカルアセスメントの概念、目的、方法、看護における必要性	吉田
	第３回　全身の観察、問診・面接、臨床推論、アセスメント	吉田
	第４回　腹部（消化器系）の診査とアセスメント	吉田
	第５回　腹部（腎・泌尿器（系）の診査とアセスメント　（エコーの使用）	吉田
	第６回　呼吸器系の審査とアセスメント	吉田
	第７回　循環器系の診査とアセスメント	吉田
	第８回　筋・骨格系の診査とアセスメント	吉田
	第９回　乳腺・リンパ系の診査とアセスメント	吉田
	第10回　中枢神経系の診査とアセスメント	吉田
	第 11回　内分泌・代謝・女性生殖器系の診査とアセスメント	吉田
	第 12 回　小児のフィジカルアセスメント	吉田
	第 13 回　高齢者のフィジカルアセスメト	別所
	第 14 回　感覚器の診査とアセスメント	三好
	第 15回　高度なフィジカルアセスメントの実践の意味	吉田
	＊演習科目のため、夏休みに集中的に実技を行う可能性あり	吉田

評価方法 評価基準	講義、演習、ディスカッションの参加状況 80%、まとめ（発表・ディスカッション）10%、レポート 10%		
教科書	なし	参考書等	福井次矢、井部俊子、山内豊明監修：ベイツ診断法第２版（2015）